

令和 3 年度 事業計画書

令和 3 年 3 月
学校法人豊田学園

I. 教育・研究・社会貢献に関する計画

1. 岐阜保健大学

(1) 教育に関する計画

①看護学部 of 教育目標

- ・社会に広く貢献するための幅広く深い教養、総合的な判断力及び誠実で豊かな人間性を養成する。
- ・人間の尊厳と権利を擁護する能力と高い倫理観を基盤としたヒューマンケアの態度を養成する。
- ・科学的根拠に基づき、看護を計画的かつ安全に実践する能力を養成する。
- ・個人や家族の健康レベルや生活、地域の特性と健康課題を査定し、より質の高い看護を実践できる能力を養成する。
- ・ケア対象のあらゆる発達段階、健康状態、心理状態に対応して援助できる能力を養成する。
- ・保健医療福祉チームとの関係性を密にし、連携・協働して社会的ニーズや状況に対応した看護を提供できる能力を養成する。
- ・看護専門職としての役割を果たし、社会に貢献していくために、将来にわたり自己研鑽を継続し、看護実践のための専門性を発展させる能力を養成する。

②リハビリテーション学部 of 教育目標

- ・社会に広く貢献するための幅広く深い教養、総合的な判断力及び誠実で豊かな人間性を養成する。
- ・人間の尊厳と権利を擁護する能力と高い倫理観を基盤としたヒューマンケアの態度を養成する。
- ・科学的根拠に基づき、理学療法、作業療法を計画的かつ安全に実践する能力を養成する。
- ・個人や家族の健康レベルや生活、地域の特性と健康課題を評価し、より質の高い理学療法、作業療法を実践できる能力を養成する。
- ・対象のあらゆる心身機能・身体構造・活動・参加に対応して支援できる能力を養成する。
- ・保健医療福祉チームとの関係性を密にし、連携・協働（共働）して社会的ニーズや状況に対応した理学療法、作業療法を提供できる能力を養成する。
- ・リハビリテーション専門職としての役割を果たし、社会に貢献していくために、将来にわたり自己研鑽を継続し、専門性を発展させる能力を養成する。

【令和3年度事業計画】

- ・岐阜保健大学看護学部開学3年目であり、3年度就任予定の教員8名を加え、総勢33名できめ細かな学生教育を行っていく。

- ・小グループ制指導による教育支援などにより、学生の「成長」につながる教育活動を展開する。
- ・授業改善のための「授業アンケート」や「学生との交流会」、「学生意見箱」等を継続的に実施することや、必要に応じて実施する学生アンケート等を通じて学生の状況分析、状況把握を行い、教育内容や教育支援の改善につなげる。
- ・岐阜保健大学リハビリテーション学部開学1年目であり、3年度就任予定の教員11名を加え、総勢21名できめ細かな学生教育を行っていく。
- ・岐阜保健大学大学院看護学研究科は岐阜県内で高度な看護教育を行う大学院として看護研究コース、保健師コース、助産師コースの3コースに分かれ開学1年目であり、3年度就任予定の教員25名できめ細かな学生教育を行っていく。

教職員の資質向上に取り組む。

○教育内容や教育方法の改善のために、FD（ファカルティ・ディベロップメント）およびSD（スタッフ・ディベロップメント）活動を充実する。また、授業見学などを通して教職員の資質向上を図る。

【令和3年度事業計画】

- ・全学FD活動における授業方法研修会の実施、授業見学会の継続的な取組等により、教育改善及び教職員の資質向上を図る。
- ・従来からある各種外部研修会に積極的に事務職員を参加させてSD活動の充実を図り、事務職員の資質向上を図る。
- ・大学内のWEBの導入により、全教員のICT教育の一貫性を取り入れ、教育の質の向上を図る。

（2）学生支援に関する計画

学生の学習・生活に関する環境や相談体制、経済支援を強化する。

○学生支援を担う各室・図書館等について、学生のニーズに応じた支援機能の強化を図る。

○小グループ制指導体制を充実させる。

○授業料免除などの各種経済支援策を検討する。

【令和3年度事業計画】

- ・教育、学習へのICTの導入を図り、学生の学びに寄与できる体制強化を図る。
- ・学生の意見・要望をくみ上げるシステムである「学生意見箱」や毎年実施している学生満足度調査により、学生のニーズを把握し、全学的な学生支援体制の強化を図る。
- ・最新のオフィスアワーを提示するなど、学生のニーズに応じた個別指導が可能となる

よう教育環境を整える。

- ・サイバー攻撃やウィルスにおける感染、SNSに潜む危険性など、コンピューターやネットワークを利用する上で必要な情報セキュリティについて周知する。
- ・学生の交通の便を確保するため、バス会社と交渉し、夕方の増便及び直行便の増便を運行してもらうよう要請する。
- ・キャリアセンターに専任の教員を配置することにより、学生の就職支援体制の強化を図る。

(3) 研究に関する計画

本学の特色ある研究を推進し、研究水準の向上を図る。

- 個人研究費と共に、共同研究費の効果的な活用を図り大学の高度な研究体制の強化を図る。
- 研究推進体制を整備・充実すると共に、研究活動の評価を通して、研究活動の活性化を図る。
- 研究成果を学術誌、学会等に公表するとともに、紀要を充実させ、社会に積極的に発信する。
- 岐阜保健大学研究センター内に設置された、「高齢者認知症予防センター」、「ネウボラ継続母子支援センター」、「多文化共生・多様性健康推進センター」、「多職種連携実践センター」の積極的な運用を行う。

【令和3年度事業計画】

- ・研究活動の活性化を図るために、**researchmap**[リサーチマップ]を活用し、研究者ホームページ、講義・研究資料の配布、業績公開、業績管理、研究コミュニティ構築まで、研究者の情報発信を支援するウェブサービスの充実を図る。
- ・外部研究費の積極的な獲得を目指す。
- ・研究成果を積極的に学術誌、学会等に公表する。
- ・研究成果を積極的に外部に発信する。

(4) 社会との連携や社会貢献に関する計画

地域貢献を図る。

- 恒例の「高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン」に参加し、ボランティア活動を通して他者との連携や競技者及び地域住民との触れ合い等を体感する。
- 岐阜保健大学研究センター内に設置された、「高齢者認知症予防センター」、「ネウボラ継続母子支援センター」、「多文化共生・多様性健康推進センター」、「多職種連携実践センター」を社会に積極的に発信する。
- プロバスケットチーム「岐阜スウープス」(運営：岐阜バスケットボール株式会社)

を支援する。

【令和3年度事業計画】

- ・看護学部教育体制の充実のために、看護臨地実習指導者研修を4回程度実施する。
- ・岐阜市主催「高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン」のボランティアに参加する。
- ・「高齢者認知症予防センター」では、軽度の認知症患者や認知症に関心のある高齢者のかたに参加してもらい、カフェを模した環境の中で、コミュニケーションを通じて、認知症の予防を図る。また、学内だけでなく、岐阜県内の公民館での老人クラブの会合等に参加し、広く出張認知症カフェについて説明を行う。
- ・「ネウボラ継続母子支援センター」は、フィンランドのネウボラ（母子支援センター）を参考にした、乳幼児までの母子を支援する施設であり、定期的にセンターで母子の交流を行い、地域の乳幼児の育児を支援する。
- ・「多文化共生・多様性健康推進センター」では、地域における多文化共生を保健・医療の視点で考え、地域住民の健康推進活動を行うことを目的とし、岐阜県で外国籍住民の多い市町村にある公立学校等の多文化共生担当者らと連携して、健康指導や感染症予防啓発などの活動を行う。
- ・「多職種連携実践センター」では、地域他職種の連携の推進を目的とし、研修会や勉強会を開催する。
- ・プロバスケットチーム「岐阜スウィーパス」（運営：岐阜バスケットボール株式会社）と連携し、講堂（未就学児及び小中学生のチアスクール）の貸出やリハビリテーション学科の教員による選手のリハビリの施術など後方支援をする。

2. 岐阜保健大学医療専門学校

（1）教育に関する計画

①スポーツ健康医療学科の教育目標

- ・生命の尊厳について深く理解し、豊かな人間性を養う。
- ・東洋医療の源を学ぶとともに、健全な身体の育成及び礼節をわきまえた人格を形成する。
- ・伝統ある東洋医療の専門的知識・技術の習得とともに、現在の主流である西洋医学の知識を身につけ、科学的根拠に基づいた判断と問題解決行動がとれる基礎的能力を養う。
- ・東洋医療に対する社会的要請の多様化に対応して、積極的に自己学習する能力を養う。

【令和3年度事業計画】

- ・授業時間数の増加に対応するため、教員の人材確保を行う。

- ・認定実技審査の改定に伴い、講義内容の充実を図る。
- ・附属治療院の活用を図る。
- ・岐阜保健大学とともに、高大連携事業に取り組み、医療職を目指す高校生の教育講座を開催する。
- ・トレーニングルームを活用し、スポーツトレーナーの養成を図る。

(2) 学生支援に関する計画

学生の国家試験対策の支援を強化する。
○学生のニーズに応じた国家試験支援対策の強化を図る。

【令和3年度事業計画】

- ・学生のニーズに応じ授業時間外に国家試験対策として教員が特別講座を開催する。

(3) 社会との連携や社会貢献に関する計画

地域貢献を図る。
○プロバスケットチーム「岐阜スウープス」(運営：岐阜バスケットボール株式会社)を支援する。

【令和3年度事業計画】

- ・プロバスケットチーム「岐阜スウープス」(運営：岐阜バスケットボール株式会社)と連携し、医療専門学校の教員による選手のはり・きゅうや柔整の施術など後方支援をする。

II. 入学者増加に関する計画

(1) 広告媒体関連

【令和3年度事業計画】

- ・令和2年度の媒体効果測定を行い、結果を検証する。オープンキャンパスの参加につながる媒体、入試の出願につながる媒体を精査し、冊子媒体、インターネット媒体に出稿する。
- ・以下のマス媒体への露出を行い、本学の周知を図る。
 - *ポスター、大学案内パンフレット、本学ホームページ
 - *受験情報雑誌、受験関連インターネット情報サイト等への掲載
 - *大規模受験相談会への出展
 - *新聞広告、広告看板掲示(高校正門付近への看板設置)、交通広告
- ・令和3年度にリハビリテーション学部の設置により、4年制学部として競合大学に勝る本学の強みを訴求できるかがポイントとなる。新設の施設・設備に加え、面倒見の

良さを国家試験合格率向上につなげる広報を実現する。

(2) オープンキャンパス実施関連

【令和3年度事業計画】

- ・オープンキャンパス動員のためのリーフレット作成は、3月開催分、5・6月開催分、7・8・9・10月開催分に分け、開催時期のニーズに合わせて誌面作りを検討する。
- ・オープンキャンパス経由の志願率向上のためのイベントの計画から、配付資料の内容、教職員の対応方法まで十分に議論し、各学科で最善策を検討する。
- ・昨年度より実施の「キャリアデザイン講座」の参加者募集を強化する。5月からの高校訪問時に高校1、2年生の参加を募る。看護師、理学療法士と作業療法士の職業理解に加え、はり・きゅう師、柔道整復師を含めた本学の医療系分野への進学を訴求することにより、入学者のマッチング、休退学及び就職後の早期離職防止への対応につなげていく。

(3) 高校訪問関連

【令和3年度事業計画】

- ・高校訪問を組織的、計画的に年間を通して行う。
- ・令和3年度の特別強化エリアとして、長野県南信地区、富山県全域を重点的に高校訪問し、指定校制推薦の依頼を4月より行う予定である。
- ・高校群の岐阜地区、西濃地区、愛知西部地区を最重点地域として年3回、東濃地区、飛騨地区、名古屋地区、長野南信地区、滋賀彦根長浜地区、富山県全域を重点地区として、年2回以上訪問する。
- ・訪問担当者はエリア化をして固定し、綿密な獲得数値目標を設定し、本学の周知と志願者の獲得を図る。
- ・各高校訪問の前に、高校訪問マニュアルを作成し、訪問の目的、目指す成果を担当者全員が共有し、質の高い訪問を目指す。

(4) 指定校推薦依頼関連

【令和3年度事業計画】

- ・現在の指定校依頼（特別指定校・一般指定校）の制度を、岐阜県限定から、上記の最重点エリア及び重点エリア（東濃地区、飛騨地区、名古屋地区、長野南信地区、滋賀彦根長浜地区、富山県全域）より、対象高校を選定し、従来より1カ月早い5月下旬から6月中旬にかけ実際に訪問した上で依頼を行う。

IV. 財政健全化に関する計画。

本学の財政については何ら問題なく推移している。

【令和 3 年度事業計画】

- ・収容定員充足に努め、安定した収入を確保し、支出面においては、経費の削減に努め、費用対効果を高める。
- ・各種補助金等の外部資金の獲得ができるような体制を作る。
- ・大学の将来の財政政策の一貫として、学部、大学院の予算化を図る。
- ・看護学部は 2024 年度、大学院が 2024 年度の文部科学省私立大学等経常費補助金申請に伴う事務体制の充実を図る。

V. 新規事業計画

【令和 3 年度事業計画】

- ・記念講堂設置計画 : 500 人収容-入学式、卒業式、オープンキャンパス等
- ・新学部の設置構想案: 心理学部 120 人定員、医療系学部（検査技師等）80 人定員
- ・大学院: リハビリテーション設置構想 20 人（教育講座担当を含む）
- ・看護学研究科博士課程設置構想

VI. 施設設備に関する計画

【令和 3 年度事業計画】

(1) 運動場用地造成

令和 2 年度に購入した土地の造成費用として 22,000 千円を計上

(2) 5 号館の雨漏り対策費用として 12,000 千円を計上

(3) 6 号館の雨漏り対策費用として 10,000 千円を計上

以 上